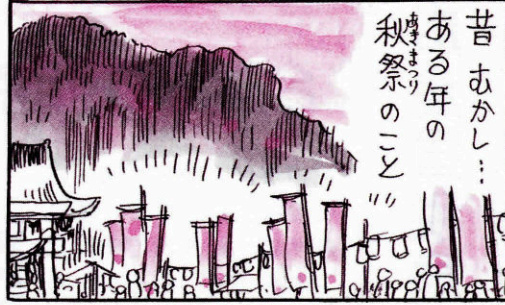


なしばきみすみ 第39話 動がなくなつた 神輿

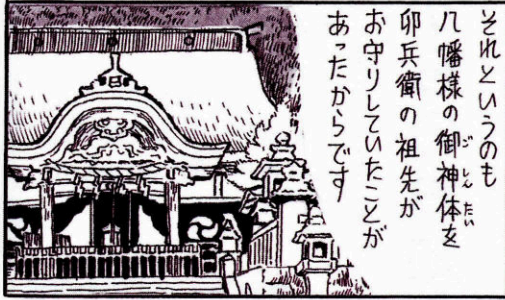
中次 広建



昔あかし...
ある年の
秋祭のこと



國貞卯兵衛は
いつものように
社務所の上席に
詰めていました



それというのも
几幡様の御神体を
卯兵衛の祖先が
お守りしていたことが
あったからです



しかし庄屋や
村役人の中には
卯兵衛に対する
あつかいを心良く
思っていない者も
いました

一介の
百姓の
くせに...



その御神体は
栗良の海岸近くの
海中で光り輝いて
いたのを卯兵衛の
祖先が拾い上げ
生島に祠を建てて
お守りして来たもの
だったので



たかが
百姓ごときが
上座を
占めるとは
無礼な
そなた
そなた
たかが
選手ごとき
が!



卯兵衛自身
昔のしきたりで
秋祭で主役を
務めることを
心苦しく思っ
ていたのにこ
うあからさまに
なじられては
とても
いたたまらな
い

すまん...
急用が
できまして

どうとう
ウンを
ついて
帰って
しまいました



さあ
そろそろ
はじまるぞ
おあつ
今年も
きばつて
神輿を
かつくぞ



さういへば
卯兵衛さんは
どこだ?
あれ
さっきまで
いたのに



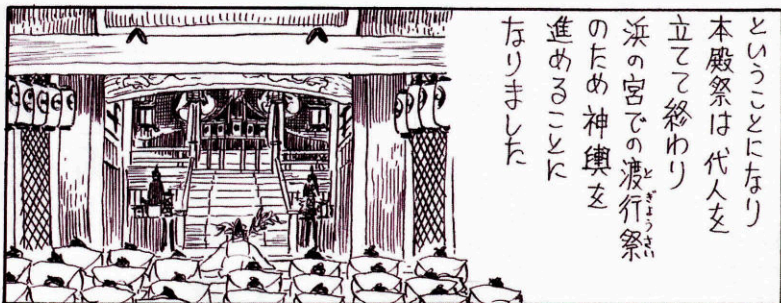
卯兵衛なら
急用ができた
とかで帰り
ましたぞ



そんな...
無責任な
もう神輿を
かつく時刻も
せまって
きている
どうしよう...



仕方ない
今年卯兵衛の
代人を立てて
はじめるしか
なからう



ということになり
本殿祭は代人を
立てて終わり
浜の宮での渡行祭
のため神輿を
進めることにな
りました